

先生がまいたやさしさのたね
秋田大学教いく文が学ぶ ふぞく小学校
二年 つし まさむね
楽しみにしていたじゅぎょううさんかんだ、
たくさん手をあげてがんばりました。今回は
道とくのじゅぎょうで、やさしさについてク
ラスのみんなで話し合いました。思いやりを
もつこと、親切にすること、おもいものをも
つてあげること、お年よりの手を引いてあげ
ることなど色いろな考えが出てきました。
そして、みんなの手があがらなくなつたと
ぎ、しんどうゆきこ先生が、
「自分のとくいなことを生かして、人をたす
けるのはどうかね。」
と聞いてきました。たとえば、ドッ ジボール
のとくいな人がにが手な人をまもつてあげる
ようにです。ぼくは、自分にできることはな
んだらうとずつと考えていました。
そんなとき、学校でわくわくおもちやパー
クという行じがありました。生活のじゅぎょう

うで作ったおもちやを見せ合って、一年生といっしょにあそぶのです。ぼくは小さな空気ほうを作りました。谷おりにした紙のまをつく之の上に立て、空気ほうでたおしてみんなにあそんでもらいます。

ところが、ぼくの考えたあそび方では上手くいきませんでした。まどからの風や、よこを人が通ったときの風ですぐに紙のまがたおれてしまい、空気ほうの力をぜんぜん見せることができません。ぼくがこまっているところのつくいな友だちがやってきて、「その紙を丸めてボールを作って、空気ほうのあなにのせて」とばしてみたら、「
紙のボールはひんといきおいよくとんでいき、まわりにいたみんなもおどろきました。」

それから、ぼくの空気ほうはみんなのちゅうもくをあつめて、一年生のみんなにもいっぱい楽しんでもらえました。

みんなに空気ほうの力を見てもらえたこと

や楽しくあそんでもらえたことは、もちろんうれしかったです。でも、もっとうれしかったのは、こまっっているぼくを見た友だちが、当たり前のようにたすけてくれたことです。家に帰ってから、このことをお父さんとお母さんに話しました。すると、

「その友だちがしてくれたことは、しんどう先生が言っていた『自分のとくいなことで人をたすける』ってことだよね。」

と、せつ明してくれました。

「ぼくも友だちみたいにできるかな。」

と聞くと、

「前にしんどう先生が『まさむねさんは自分からすすんでゆかのゴミをすてて、教室をきれいにしてくれています』ってほめてたよ。だから、まさむねもとくいなそうじでみんなをたすけることができているんだよ。」

と、教えてくれました。

つまり、しんどう先生が言っていた自分のとくいなことで人をたすけることの答えは、

ぼくの中にあつたのです。ぼくにとってそう
じは、みんなに自分を見てももらいたくてやっ
ていたことではなく、やって当たり前のこと
でした。わざわざ人にやさしくしてあげよう
としなくても、自分にできる当たり前のこと
をしているだけで、気づかないうちにだれか
をたすけることができていたのです。

ぼくのクラスでは毎日、しんどう先生がほ
くやクラスのみんなに声をかけてくれます。
学校の行き帰りにあぶないことはないか、友
だちとなかよくできているか、などです。こ
れは、しんどう先生にとって当たり前のこと
となのかもしれません。でも、そんな当たり
前のやさしさがぼくたちをたすけてくれてい
ます。そして、先生のやさしさをうけとった
クラスのみんながおたがいに声をかけ合い、
やさしいクラスが作られています。

ぼくのクラスには、しんどう先生とみんな
のやさしさがいっぱいです。そんな二年B組
のことが、ぼくは大すぎです。